ひとから真に求められる『心のケア』を考えます

ベトレヘムの風

発行：ベトレヘムの園病院　隔月15日発行　編集：広報委員会
住所：東京都清瀬市梅園三丁目14番72号　☎042-491-2525　URL: http://www.betohp.com

日本医療機能評価機構

No.100

『ベトレヘムの風－100回記念号』～邪悪なコロナと戦う～

院長　青木 信彦

5月になりました。ベトレヘムの園病院の庭園では巨大なハナミズキと白い藤（白カピタン）が華やかさを競っています。

そしてまさしくコロナ正念場のこのとき、ベトレヘムの風は100回記念を迎えました。これも何かの縁です、巡り合わせなのです。

ベトレヘムの園病院創設者フロジャク神父様のご意向なのだと思わざるを得ないのです。

フロジャク神父様は天から「ベトレヘムの園病院よ、己の職務を果たせ！　邪悪なコロナに負けるな！」とおっしゃっているのです。フランスから派遣され、異国のヘキチ（当時の清瀬）で苦難を乗り越えてこのベトレヘムの園病院を創設された神父様のお言葉には重みがあります。（院長のような、軽々しい発言ではありません）

去る4月22日の昼休み時間に全職員を庭園に集合させました。

全職員（写真でみると若干名の欠席はあるものの）を前に決意表明：「邪悪なコロナに打ち勝つ！」

ここで、迫り来る邪悪なコロナへ立ち向かうベトレヘムの園病院の基本戦略を確認しました。

つまり、

① **入院患者さんにコロナ感染を絶対に発生させない**
② **標準的な外来診療を継続する**

都立墨東病院をはじめ今まさにコロナ最前線で戦っている医療従事者と手をたずさえて、その後方支援をすることはベトレヘムの園病院の使命となります。

これが②標準的な外来診療の継続なのです。

そして邪悪なコロナの影におびえながらも、『ベトレヘムの風－100号』を記念して、その設立の原点に立ち戻ります。

つまり、

- **ベトレヘムの園病院はなぜ必要とされるのか**
- **私たちはそのためには何をするのか**

この病院の存在意義をあらためて確認しました。

最後にベトレヘムの園病院の決意表明です

⇒　邪悪なコロナに打ち勝ち平和を取り戻す！

コロナ征伐のあかつきには病院の庭園に全員集合して、良く冷えた白ワインで互いの健闘をたたえ合いましょう。

「ベトレヘムの風」100号達成!

～創刊号2004（H16）1月15日発行からスタートして～

巻頭言

リーダーシップは病院の原動力

木下先生 17～19号
星　先生 21～32号
前村先生 33～62号
青木先生 63号から

シリーズ

医学こぼれ話
星先生 33～73号

ひふの話
市川先生 46号～継続中

読者の皆様からの『声』〈感想・意見〉をいただきました

「ベトレヘムの風」100号おめでとうございます

★毎回読むのを楽しみにしています。

★くすっ❣と笑えたり、へぇー！と感心したり、いつも楽しく拝読しています。

★№98の「痛くないインフルエンザワクチン注射」を興味深く何度も読みました。いつも注射の時、職員は「今回は痛かった」「今日の先生は痛くなった」等、医師の腕前によるところが大きいと思い込んでいます。コロナワクチンが開発された時には、RPSIメソッドも広まっているといいですね。

★院長先生のユーモアをまじえた勉強になるお話し、各職場の方々のガンバッテいる姿が記事になり、私達を刺激して下さいます。

★病院は広く綺麗な園庭があることが特長の一つですので、園庭で咲く四季折々の花の紹介が季節ごとにあっても良いかもしれないと思いました。

★第一面の題字の上に、“ひとから真に求められる「心のケア」を考えます”という貴院の基本理念が書かれています。院長先生を始めとして、各部門の方々の記事はそれぞれ面白く、またこの基本理念に則しているのに感銘を受けています。とくに意見はありませんが、強いて言えば患者さんやご家族の意見も載せていただけたらと思います。

★夫婦で読んでいて、興味のある記事を互いに紹介し合っています。掲載の記事は病院スタッフの皆さまの日々のご努力、ご研鑽が感じられる内容で、毎号様々なことを教えていただき勉強になります。

★これからも「ベトレヘムの風」が長く続きますようお祈りします。

療養病床の質の向上を目指して 医療機能評価審査の受審

5年毎に更新

① H16年5/26と5/27
業務改善との取組、データーの整理、職員同士の信頼、当院の売りを理解してもらえる気概、等々スタッフ全員の努力（11号から）H17年9月「認定証」交付受ける

H22年とH27年にも更新済です

次の更新はR2年（2020）、準備中？

クリスマス祝会

―ミサとキャンドルサービス―

祈りのつどい

看護部・申し送りの様子

身体（からだ）と心（こころ）と魂（たましい）にやすらぎを運（はこ）びます

研究発表会

夏まつり

年間の楽しい情熱を傾けて

地域公益活動

中間的就労支援

学習支援 はなみずき

公開健康講座／健康まつり

腰痛予防

健康まつり

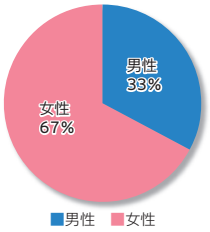
令和元年度 外来アンケート集計結果

2020/3/16 ～ 2020/3/25

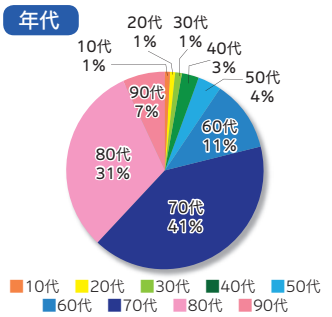
このアンケートは外来受診した103名(実人数)の患者から、診察や会計の合間に聞き取り、又は本人記述にて回答を得た。

～患者基本情報～

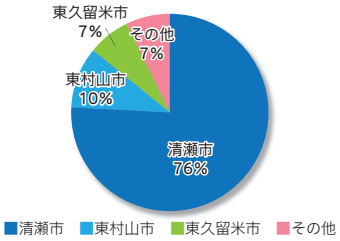
性別



年代



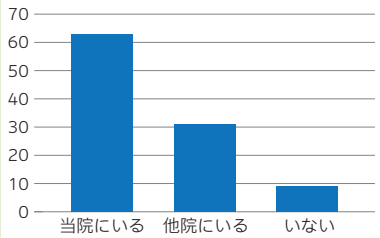
住居



～かかりつけ医に関する質問～

Q1　体調が悪い時や健康について相談したいときに、いつも受診する医師はいますか。（複数回答可）

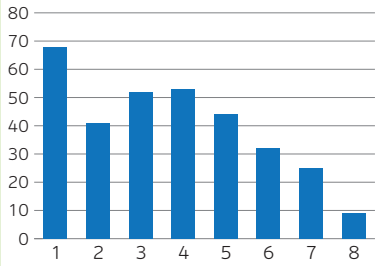
当院にいる	63名
他院にいる	31名
いない	9名



Q2　あなたが主治医（かかりつけ医）を選ぶ上で重要なことはどんなことですか。（複数回答可）

1. 自宅や勤務先から近い	68名
2. 医師の診察技術や経験等が信頼できる	41名
3. どんな病気のことでもまずは相談にのってもらえる	52名
4. 病気や治療についてよく説明してくれる	53名
5. あなたの病歴や健康状態などをよく知っている	44名
6. あなたの治療の意向や心情、価値観に配慮してくれる	32名
7. 健康づくりや病気の予防の相談に応じてくれる	25名
8. その他	9名

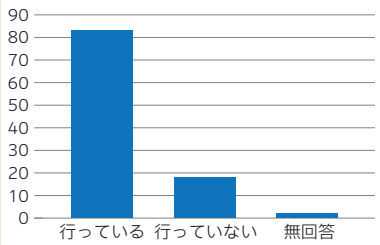
- 相性　・親切
- はっきり言ってくれる
- 一生懸命
- 臨床に力を入れている
- 人間全体を診てくれる
- 宗教



Q3　あなたの主治医（かかりつけ医）は、あなたの健康全般に関心を持ち、下記のような事柄を交えながら治療を行っていますか？
（適度な運動・健康的な生活習慣・不安や悩み・加齢による体や心の変化など）

行っている	83名
行っていない	18名
無回答	2名

- とても良く話を聴いてくれてアドバイスしてくれる
- 自身の既往症や性格を踏まえた診察をしてくれる
- あまり話しをせずに診察が終わる
- 形式的な診察になっている



アンケートに対する職員の感想

★総合診療では、生活を重視して病院の外とも連携し、家庭や地域との関わりの中で一人一人の生き方に寄り添っていきます。どんな職種とも語り合える町の集会所のような雰囲気を病院の中で創り出せたら良いなと思いました。（井上副院長）

★ご協力いただきまして有難うございました。皆様の思いを参考にさせていただきながら、外来看護に関わっていきたいと思います。（外来看護師）

★アンケートの結果、食事に関心が高いことを知り、困ったことがあったら無料健康相談を活用して、気軽に当院の栄養士にご相談ください。（栄養科）

★ご自身の健康に対し“運動”に関心をお持ちの方が非常に多いことが分かりました。当院にはリハビリの専門家がいます。お一人お一人に合った運動のご提案、ご相談に応じますので、是非この機会に活用されてみてはいかがでしょうか。（リハビリテーション科）

～当院に関する質問～

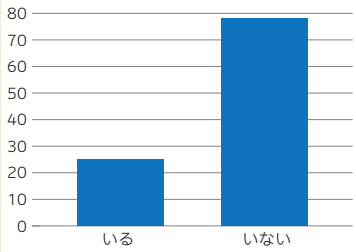
Q4　医師以外で、あなたやあなたの家族について相談出来る職員が当院にいますか。

いる	25名
いない	78名

※“いる”と回答した方（複数回答可）

- リハビリ　7
- ＭＳＷ　7
- 看護師　5
- 事務　3

※“いない”と回答の方
今現在困った事・相談したい事が特にないと答えた方が非常に多かった

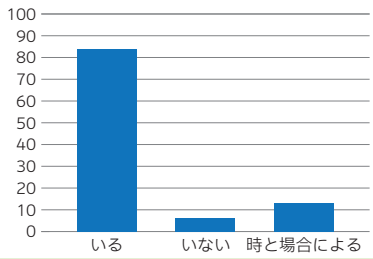


Q5　当院の職員は、受診や相談などであなたの思いや意思を尊重する対応をしていますか。

いる	84名
いない	6名
時と場合による	13名

※どのような点がそのように感じましたか

- 挨拶や対応、見えない所でも、ベトレヘムの職員はよくやっている
- そもそも深く関わるような機会がない
- まだ何とも言えない



Q6　あなたが今、自身の健康に対し一番関心があることは何ですか。

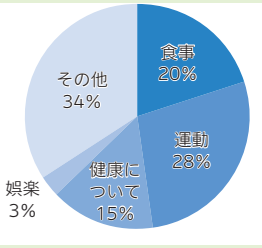
食事　26名
- 栄養のバランス　・規則正しい食事

運動　37名
- 体を動かす　・体力、筋力の管理
- 積極的に歩く　・リハビリについて
- 体操

健康について　19名
- 体調管理　・身体の衰え
- 体重管理　・現在の病気について
- 足腰の健康　・今後の体調の変化
- 回復の見込み

娯楽　4名
- 書道　・ストレスをためない

その他　44名
- 特になし　・コロナウイルスについて　・老いについて
- 経済的なこと　・ストレス管理　・終活　・通院について
- 人間関係　・無理をしない　・薬について



～アンケートを終えて～

- アンケートの質問内容は、患者の基本情報に加え、プライマリ・ケア質評価尺度(JPCAT)のサンプルからそのまま引用させて頂いた内容(Q1 ～ Q3)と、少し修正したもの(Q4 ～ Q6)を用いました。
- 外来に通院されている多くが近隣に済む地域住民の方々でしたが、今回のアンケートで強く感じたのが、地域の方々の意識の変化です。以前から健康に関する関心は高かったのですが、高血圧や糖尿病といった病気に関することから、食事や運動など日常生活の中で自身が“出来ること”に関心が移っていることが分かります。溢れかえる情報の中から自身に合うものを上手に選択し、潤いのある毎日を送ろうと心掛けていることが伺えます。これからの病院の在り方の1つとして、病気や怪我の治療はもちろん、地域の方々に有意義な情報を提供し、共同学習による学びやコミュニケーション活動の活性化に関わる役割の必要性を感じました。
- 最後になりましたが、お忙しいところアンケートにご協力頂いた方に心よりお礼申し上げます。有難うございました。　医療連携課　大崎

ひふの話 その52

市川 雅子（皮膚科医師）

すねに赤いプツプツがでました

新型コロナの流行はまだ収まりませんが、今回はその病気とは関係のない、「すねに紫斑の出る病気」についてのお話です。「紫斑」という皮疹は別名「出血斑」とも言って皮膚の血管から出血して出てくる皮膚変化のことです。「紫斑」という言葉から紫や青という色をイメージするかもしれませんが、打撲などの時に見られるような大きな紫斑とは違い、すねにでる小さな紫斑は赤っぽく見えます。皮膚の浅いところで少量の出血が起きているためです。小さい紫斑がたくさん出てくる病気はいくつかありますが、代表的なものを３つ取り上げます。一つはうっ血性紫斑です。これは血管に圧力が加わりうっ血したあとにでてくるものです。血圧を測る時に二の腕を圧迫しますが、そのあとに腕に出ることがあります。排便時のいきみで腹部や下肢に出ることもあります。多くは様子をみるだけで消えるのですが、日ごとに増えてきたり大きな紫斑も出てくるようなときは早めに病院に行きましょう。二つめは慢性色素性紫斑です。高齢者によくみられるものです。すねに好発し点状紫斑がたくさん集まった赤い大きな斑点がいくつかみられ、時にかゆみを伴うことがあります。これは静脈の働きが弱くなったためにでてくるものです。ひどくなると大腿などにもでてくることがあります。歩きすぎや立ち仕事、長時間座り続けたり、ジョギングなどの運動でも出やすくなります。なるべく下肢をむくませないように弾性ストッキングや弾性包帯の着用、止血剤やビタミンCの内服、ヘパリン類似物質含有の外用剤などで対応します。三つめはアナフィラクトイド紫斑です。触ると少し膨らみを感じる数ミリ大の紫斑が多発する血管炎のひとつです。この病気は、皮膚だけでなく腎臓や消化管、関節などの小さな血管にも炎症がおこることがあります。扁桃腺に溶連菌がついている子供に好発しますが、薬や食べ物などが原因のこともあります。高齢者の場合、子供よりも腎炎を発症する確率が高いと言われます。この病気はきちんと治療しないと恐いので、自己判断で治療を中断しないで下さい。

我が家のペット『我が家の姫ウズラ:近況報告』（2020年5月）

青木 信彦（院長）

我が家の姫ウズラとの共同生活は２年となりました。

私たちは良好な関係を維持しています。今では互いに気心も知れ、わたしがピピーとか口笛で合図をすると、姫ウズラは“伏せ”をしてなでてもらうのを待っています。背中をなでるとそのたびにヒヒーとかいって感謝の気持ちを表すのです。

２匹の姫ウズラ（シロとクロ）は仲良しだったのですが２年も同じ部屋一緒ですと、さすがに相手のアクが気になって、時には険悪な場面もみられるようになりました。人間と同じなのですね。そこでしばらくは双方をワンルームマンションに住まわせることにしました。ワンルームマンションといっても壁ひとつ隔てただけですので互いの動きは分かるらしくさみしそうな素振りはありません。大好きなミールワームの争奪戦もなく、最近は満足しているようです。

お知らせ

★新型コロナウイルス感染防止対策の一環として3月中旬以降の院内外の行事はすべて中止となっています。今後、医療機関として、収束前後の状況等を踏まえ新たな予定をご案内する予定です。

編集後記

「ベトレヘムの風」創刊号は2004年（H16）、アテネオリンピックの年、広報誌の発行のきっかけは医療機能評価受審でした。私が関わり始めたのは第９号からで、それまでは印刷まですべて自前、10号からは患者さんの見舞いの際に広報誌がトロア企画（株）の社長さんの目に留まり、“お手伝いしましょうか”と。この一言に飛びつき、今日に至るまで専門的なアドバイスやデザインの提供をしていただいたお陰で、垢抜けした広報誌に変身、進化発展を遂げているのです。（自画自賛）　厳しい原稿集めや初稿までは、苦しい思いがあっても病院の歴史を刻んだ100号の発行は喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。これからも「ベトレヘムの風」の愛読と感想なりいただければ幸いです。（Jk・T）